

平成 29 年 度 第 2 回
京都大学大学院人間・環境学研究科
修士課程学生募集要項

本研究科の修士課程は、大学院設置基準にいう博士課程の前期 2 年の課程である。

大学院人間・環境学研究科の目的

人間・環境学研究科は、環境、自然、人間、文明、文化を対象とする幅広い学問分野の連携を通じて、人間と環境のあり方についての根源的な理解を深めるとともに、人間と環境のよりよい関係を構築するための新たな文明観、自然観の創出に役立つ学術研究を推進することを目指す。また、こうした研究活動を推進するなかで、人間及び環境の問題に対して広い視野、高度な知識、鋭い先見性をもって取り組むことのできる研究者、指導者、実務者を養成することを目指す。

<共生人間学専攻>

共生人間学専攻では、「人間相互の共生」という視点に立ち、人間と環境の相関関係において人間の根源を探究しつつ、現代社会の具体的諸課題に取り組み、社会的要請に柔軟に応えられる研究者、指導者、実務者の養成を目指す。

<共生文明学専攻>

共生文明学専攻では、共生・融和の可能性を追求するため、多様な文明の間にみられる対立・相克の構造を解明するとともに、歴史・社会・文化の諸相にわたって複雑にからみあう文明の諸問題に新たな見地から取り組み、解決の方向性を示すことのできる研究者、指導者、実務者の養成を目指す。

<相關環境学専攻>

相關環境学専攻では、人間と自然環境の関わりを包括的に理解することを目指した基礎研究を展開するとともに、自然と人間の調和を図るために必要な新しい社会システムの確立に、高度な見識と科学的・論理的判断力をもって貢献することのできる研究者、指導者、実務者の養成を目指す。

1. 募集人員 78名(社会人若干名を含む)

共生人間学専攻	33名
共生文明学専攻	28名
相關環境学専攻	17名

2. 出願資格 一出願時において、次のいずれかの資格を有する者

- (1) 大学を卒業した者及び平成 29 年 3 月 31 日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者及び平成 29 年 3 月 31 日までにそれに該当する見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者及び平成 29 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者及び平成 29 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成 29 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (6) 文部科学大臣が指定する専修学校の専門課程を文部科学大臣が定める日以降に修了した者及び平成 29 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (7) 文部科学大臣の指定した者(昭和 28 年文部省告示第 5 号)及び平成 29 年 3 月 31 日までにそれに該当する見込みの者
- (8) 平成 29 年 3 月 31 日で大学に 3 年以上在学したことになる者（学校教育法第 102 条第 2 項の規程により、これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であって、所定の単位(専門科目 56 単位以上を含め、計 112 単位を下限とする。)を優れた成績をもって修得し得ると本研究科において認めるもの
- (9) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成 29 年 3 月 31 日までに 22 歳に達するもの

*** 出願資格(8)・(9)により出願を希望する者は、出願に先立ち、出願資格の審査を行うので、申請に必要な書類を平成 28 年 12 月 9 日(金)までに本研究科大学院掛へ請求・入手し、関係する証明書を添えて大学院掛へ書留便で郵送すること。(平成 28 年 12 月 16 日(金)午後 5 時(必着))**

3. 出願書類等

下記の出願書類を所定封筒(願書等の入っていた青色封筒)により書留便で郵送すること。

(1) 入学願書・写真票・ 受 験 票	所定用紙に必要事項を記入のうえ、上半身脱帽正面向きで、出願前3か月以内に撮影した写真(縦3cm×横2.4cm)を各票の所定の枠内に貼付すること。 記入にあたり願書裏面の注意事項を熟読のこと。受験票は1月23日頃郵送予定
(2) 卒業(見込)証明書・ 成 績 証 明 書	出身大学学長又は学部長が作成したもの。(外国の大学はコピーでも可。なお、大学学部編入した者は、編入前の大学の成績証明書も提出。)
(3) 入学検定料振込金受 付証明書 貼付台紙	検定料 30,000 円 振込期日 平成 28 年 12 月 19 日(月)～平成 29 年 1 月 10 日(火) (期限当日の収納印有効・期間外取扱不可) *国費留学生の場合「国費外国人留学生証明書」をもって入学検定料に代える。 (振込方法) ① 本研究科所定の振込依頼書のご依頼人欄(3ヶ所)に出願者の氏名等を記入のうえ、切り離さずに金融機関(ゆうちょ銀行、郵便局を除く。)の窓口を持参して、入学検定料を振り込むこと。ATM(現金自動預入支払機)やインターネット等での振込は不可。 ② 三井住友銀行の本・支店から振り込む場合の振込手数料は不要。その他の金融機関から振り込む場合の振込手数料は出願者負担。 ③ 振り込み後、「入学検定料振込金受付証明書」及び「入学検定料振込金(兼手数料)受取書」に収納印が押印されていることを確認して受け取り、「入学検定料振込金受付証明書」(左半分)を「入学検定料振込金受付証明書貼付台紙」に貼付すること。 (収納印がない場合は願書を受理しない。)「入学検定料振込金(兼手数料)受取書」(右半分・収入印紙貼付のもの)は、出願者が保管すること。 注 入学検定料を振り込んだが出願しなかった場合、または、誤って二重に振り込んだ場合は、本募集要項表紙掲記の大学院掛にその旨を申し出ること。 *平成23年3月に発生した東日本大震災ならびに平成28年4月に発生した熊本地震による災害救助法適用地域において、主たる家計支持者が被災された方で、罹災証明書等を得ることができる場合は入学検定料を免除することがあります。詳しくは、12月12日(月)までに、本研究科大学院掛まで問い合わせてください。
(4) 受験票等送付用封筒	所定封筒に出願者の郵便番号・住所・氏名を明記し、372円分の切手を貼ること。
(5) あ て 名 票	所定用紙に合格通知等を受け取る住所・氏名・郵便番号を記入すること。
(6) TOEFL/TOEIC スコアの写し	外国語試験をB方式とする講座の教員を志望する者は、対象となるTOEFLもしくはTOEICのスコア(平成25年4月1日以降の受験有効)の写しを提出すること。なお受験当日にスコアの本紙を持参すること。
(7) 論 文	専門試験に論文試験の審査を加えようとする者は、出願に先立ってあらかじめ第1志望の教員に相談すること。 論文試験による出願を認められた者は、これまでに執筆した研究論文(未発表のものも可)1編3部とその要約(日本語文4,000字程度を綴じたもの)3部を提出すること。 〔論文が入る大きさの封筒又は小包に、(1)～(6)・(8)の出願書類を入れた所定の青色封筒を同封し、必ず書留便で郵送すること。〕
(8) その他の添付書類 ① 履 歴 書 ② 住民票、在留カード 又はパスポートの 写しのいずれか ③ 学位記の写し又は 学位授与証明書	①外国人留学生及び外国の大学を卒業した者は、履歴書(本研究科交付の所定用紙)を提出すること。 ②外国人留学生は、日本に在留している者は市区町村長の発行する住民票又は在留カードの表・裏両面の写し(在留資格、在留期間が記載されたもの)を、海外在住の者はパスポートの写し(顔写真の貼付されたページ)を提出すること。 ③上記2. 出願資格(2)による学士の学位を授与された者は、学位記の写し又は学位授与証明書を提出すること。なお、学位授与見込みの者は、当該「修了見込証明書」及び「学士の学位授与申請(予定)証明書」(様式随意:学位が得られないこととなった場合は、速やかに通知する旨の記載があるもの)を提出すること。

4. 出願手続

郵送に限る。

出願者は、前記の出願書類を取り揃え、所定封筒(書留便)で郵送すること。(直接持参しても、受け付けない。)

なお、出願書類に不備があれば受理しない場合がある。

5. 願書受理期間

平成 29 年 1 月 4 日(水)から平成 29 年 1 月 10 日(火)午後 5 時まで(必着)。ただし、平成 29 年 1 月 8 日(日)以前の発信局消印のある書留速達郵便に限り、期限後に到着した場合でも受理する。

6. 選抜試験実施方法

選抜試験は外国語試験、専門試験および口述試験により実施する。専門試験および口述試験の実施方法は共通であるが、外国語試験は下記の表の通り A・B の 2 方式に分けて実施する。第一志望の指導教員の所属する講座のとり方に従うこと。

A 方式		B 方式
試験第 1 日目に第 1 外国語、第 2 外国語の筆答試験を課す。		平成 25 年 4 月 1 日以降に受験した TOEFL/TOEIC のスコア提出をもって外国語試験に替える。(詳細は欄外の説明を参照のこと)
11. 人間社会論講座	21. 現代文明論講座	13. 認知行動科学講座
12. 思想文化論講座	22. 比較文明論講座	31. 共生社会論講座
14. 数理科学講座	23. 文化・地域環境論講座	32. 分子・生命環境論講座
15. 言語科学講座	24. 歴史文化社会論講座	33. 自然環境動態論講座
16. 外国語教育論講座		34. 物質相関論講座

B 方式の外国語試験は TOEFL もしくは TOEIC のスコアで代用する。対象となる TOEFL もしくは TOEIC のスコア(平成 25 年 4 月 1 日以降に受験したものが有効)の写しの提出を課し、受験当日にスコアの本紙を確認する(持参がない場合は 0 点とする)。対象とするスコアは下記の通りである。

TOEFL は TOEFL-iBT(Internet-based Test)または TOEFL-PBT(Paper-based Test)のスコアを有効とし、TOEFL-ITP(Institutional Testing Program)のスコアは認めない。

また、TOEIC については公開テストのスコアのみを有効とし、TOEIC Bridge や TOEIC IP、TOEIC SW のスコアは認めない。また、団体特別受験制度(IP テスト)におけるスコアも認めない。

なお、TOEFL-iBT と TOEFL-PBT のスコア換算には、「TOEFL®Internet-based Test Score Comparison Tables」の換算表を、TOEFL-PBT と TOEIC のスコア換算には下記の換算式を使用する。

$$\text{TOEIC スコア} \times 0.348 + 296 = \text{TOEFL-PBT スコア}$$

7. 試験日程等

試験場:京都大学吉田南構内（詳細は受験票送付時に案内する）

・外国語科目試験(A方式)

平成 29 年 2 月 9 日 (木)	
外 国 語 (筆答試験) 午前 9 時 ～11 時 (注) 1言語につき1冊の語学辞書(ただし、電子辞書を除く)の使用を許可する。	<受験生一般> 英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・イタリア語・中国語・スペイン語・アラビア語・朝鮮語のうちから第1外国語と第2外国語を選択すること。 ただし、第1志望と第2志望を下記の講座に属する専門分野の中から選ぶ者は、第1外国語に英語を選択する場合、第2外国語として第2外国語用の英語問題を選ぶことができる。 外国語は出願時に選択し、出願後の変更は認めない。 (英語以外は、第1外国語、第2外国語に同一外国語を選択できない。)
	記 11. 人間社会論講座 14. 数理科学講座 15. 言語科学講座 21. 現代文明論講座のうち 現代社会論分野、国際社会論分野 及び以下の教員(那須)
	23. 文化・地域環境論講座 24. 歴史文化社会論講座のうち 博物館文化財学分野、日本語学、 日本文学、日本歴史関係の教員 (須田、佐野宏、長谷川、元木)
	<外国人留学生> 第1外国語：日本語 第2外国語：前記9か国語のうちから選択 (問題の選択については、5頁 別表1・2を参照。)

・専門科目試験

平成 29 年 2 月 9 日 (木)	
専 門 科 目 (筆答試験) 午後 0 時半 ～3 時	本研究科において勉学を希望する専門分野(第1志望)についての学力を問う。 なお、専門分野に関係した外国語の問題を加えることがある。詳細は「専門科目出題説明一覧」を参照のこと。 専門分野は出願時に選択し、出願後の変更は認めない。

試験科目別配点

科	目	配 点
外国語 (A方式)	第 1 外 国 語	80
	第 2 外 国 語	20
外国語 (B方式)	TOEFL / TOEIC	*100
専 門 科 目 (筆答試験)		**300
合 計		400

* 換算の目安は前頁に記載の通りとする。

** ただし、論文受験許可者の配点は論文 200 点、筆答試験 100 点とする。

・口述試験

平成 29 年 2月10日 (金)	
午前 9 時～ (所要約 25 分)	本研究科において勉学を希望する専門分野についての学力を口頭で問う。 なお、個別の受験者の面接時間と会場は受験票送付時に同封する面接表を参照のこと。

・論文試験(選択にあたっては、3.(7)を参照のこと。)

平成 29 年 2月10日 (金)	
午前 9 時～ (所要約 25 分)	提出した論文を審査(論文についての口頭試問を含む)する。

8. 合格者発表

平成 29 年 2 月 17 日(金)午後 1 時頃、大学院人間・環境学研究科公用掲示板に発表する。

なお、受験者の便宜のため、合格者受験番号を一時的にホームページに掲載するが、正式な発表は人間・環境学研究科公用掲示板で確認すること。(電話等による結果の問合せには応じない。)

合格者には 2 月 22 日(水)頃に合格通知書を簡易書留にて郵送する。

掲示の合格発表は受験番号のみで行うので、各自の合格した講座・担当教員については「合格通知書」により確認すること。(参考) 人間・環境学研究科ホームページ https://www.h.kyoto-u.ac.jp/entrance_exam/

9. 入学手続等

入学料 282,000 円 *入学時に改定されることがある。

授業料 前期分 267,900 円 (年額 535,800 円) *入学時、在学時に改定されることがある。

入学手続場所・入学手続日・入学手続書類等については、合格通知と併せて送付する。

10. 3 年次修了合格者

上記 2. 出願資格(8)に該当する者については、合格者発表に際し、これを仮合格者とし在学中の成績が所定の要件を満たしていることを確認したのち、正式の合格者とする。そうでない場合は、不合格とする。

成績確認に必要な書類は、平成 29 年 3 月 6 日(月)までに提出すること。

11. 外国人留学生

本研究科を受験しようとする外国人留学生で、国費留学生(文部科学省奨学金受給者)は、入学願書提出に先立ち、本研究科において勉学を希望する専門分野の担当教員に申し出て相談すること。

〔別表 1.〕

留学生向け第 1 外国語(日本語)の問題選択について

第 1 外国語(日本語)の問題は、「日本語 A」(より高度な内容)、「日本語 B」(一般的な内容)の二種を設けるが、その選択にあたっては次によること。

「日本語 A」…下記の講座の専門分野を受験する者

「日本語 B」…下記以外の講座の専門分野を受験する者

記

11. 人間社会論講座

12. 思想文化論講座

15. 言語科学講座

16. 外国語教育論講座

24. 歴史文化社会論講座

(辻・道坂を志望する者は日本語 B も選択可)

ただし、第 1 志望で「日本語 B」を受験する場合、第 2 志望として「日本語 A」の課される上記講座の専門分野を選ぶことができない。その逆は差し支えない。

〔別表 2.〕

留学生向け第 2 外国語の問題選択について

第 2 外国語の問題は、第 1 志望と第 2 志望を下記の講座に属する専門分野の中から選ぶ者以外は 9 科目のうちから自由に選択して良い。

記

12. 思想文化論講座・・・9 科目のうち母国語以外から選択

14. 数理科学講座・・・英語を指定

23. 文化・地域環境論講座・・・英語を指定

12. 社会人入学

社会人で、大学院設置基準第 14 条特例(社会人学生の所属先における勤務条件、通学に要する時間等を考慮し、授業時間は、通常の授業時間帯及び通常の授業時間帯以外の特定の時間又は時期に設ける)による教育の実施を希望する者は、入学願書提出に先立ち、本研究科において勉学を希望する専門分野の担当教員に申し出て相談すること。

13. 注意事項

(1) 出願に関する注意

ア. 別記(本募集要項 3(7)、11、12、専門科目試験出題説明一覧 244 分野)した以外の受験希望者についても、出願に先立って志望する教員との面談を希望する者は、研究科のホームページに公開されている教員のメールアドレス等に連絡すること。

イ. 出願手続後は、いかなる理由があっても書類記載事項の書き換えを認めない。また、入学検定料の払い戻しはしない。

(2) 受験に関する注意

ア. 試験に関する注意事項等については、願書受理期間終了後受験票の郵送とともに通知する。

イ. 語学辞書の使用許可については、下記のとおりとする。

- a) 外国語試験においては、1 言語につき 1 冊の語学辞書(ただし、電子辞書は除く。)の使用を許可する。
- b) 専門試験においては、辞書の使用を許可しない。

(3) 論文試験受験のために提出された論文は、返却しない。

(4) 入学手続に関する注意

ア. 出願時に大学・大学院(研究生等を含む。)に在学の者は、所属長の発行する退学証明書(様式随意。退学の日付は、平成 29 年 3 月 31 日以前であること。)又は卒業証明書等を入学手続時に提出すること。

イ. 官公庁・会社等に在職のまま入学する者は、所属長の発行する入学承諾書(様式随意)を入学手続時に提出すること。

ウ. 出願時に、2. 出願資格(2)に該当する専攻科又は課程に在学の者は、所属長の発行する修了証明書及び学位授与機構の発行する学位記の写し又は学位授与証明書を入学手続時に提出すること。

(5) 出願書類の郵送を希望するときは、受信場所及び受信者氏名を明記し、400 円切手(第 1 種定形外料金)を貼った標準封筒角形 2 号(332 mm×240 mm)を同封し、京都大学大学院人間・環境学研究科大学院掛に、「**第 2 回修士課程学生募集要項請求**」と朱書して申し込むこと。

(6) 障害等があり受験上若しくは修学にあたって配慮を必要とする者は、平成 28 年 12 月 12 日(月)までに、本研究科大学院掛へ申し出ること。

14. 個人情報の取り扱いについて

出願書類等に記載されている、氏名、性別、生年月日、住所、その他の個人情報(成績判定に関する情報を含む)は、入学試験の実施および入学手続き等のため、「京都大学における個人情報の保護に関する規程」の定めるところにより取り扱う。

平成 28 年 10 月

京都大学大学院人間・環境学研究科
110jinkan_jimu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

平成29年度第2回 専門科目試験

出題説明一覧

共生人間学専攻(1/2)

講座 番号	分野 番号	分 野 名	出 題 内 容 に つ い て の 示 唆
11	111	人間形成論	人間形成の諸問題に関わって、精神分析学、発達心理学、教育社会学、教育史から出題した問題の一つを選択し解答する。
	112	人間共生論	* 学生を募集しない。
	113	社会行動論	以下の論述形式の問題の中から一つを選択する。 a. 社会学 b. グループ・ダイナミックス、社会心理学
	114	文化社会論	歴史社会的な観点から、主として欧米と日本の諸文化(文学、思想、芸術、映画、メディア、社会制度など)を考察する(選択式論述問題)。 外国語(英独仏語)の問題(選択式)を課すこともある。
12	121	人間存在論	哲学の基本的知識を問う共通問題と並んで、以下の中から一つを選択する。 a. 自己存在論:存在論・現象学・解釈学を中心に、哲学の知識と思考力を問う問題。 b. 哲学・文化史:哲学史を中心に、それと関係する科学史・文化史などに関する知識と思考力を問う問題。 c. 人間実践論:現象学・実践哲学(倫理学)を中心に、哲学の知識と思考力を問う問題。
	122	創造行為論	以下の中から一つを選択する。 a. 西洋および日本の美学・芸術学・美術史についての知識を問う。 b. 英米演劇についての知識を問う。
	123	文芸表象論	以下の中から一つを選択する。 a. 英・米文学を選択する者には、近代英米文学、文学史および文芸批評に関する知識を問う。 b. ドイツ文学を選択する者には、近代ドイツ文学、文学史・文化史についての基礎的知識(ドイツ語を含む)を問う。
13	131	認知科学	認知科学・行動制御学・身体機能論の受験生は、専門試験科目として「認知・行動科学」を受験すること(これ以外の科目の受験は認めない)。本試験科目では、「基礎」と「発展」の2つの大問を設定し、受験生は各大問に含まれる小問を1問ずつ選択して解答する。 「基礎」の設問では、認知・行動科学講座での研究に関連する基礎的な問題が複数問出題され、受験生はそこから小問1つを自由に選択し、回答する。選択する小問は必ずしも受験生の希望する研究室の専門と同じでなくとも良い。 「発展」の設問では、認知・行動科学講座での研究に関連する発展的な問題が複数問出題され、受験生はそこから希望する研究分野が指定する小問1つを選択し、回答する。指定以外の小問を回答した場合は、本設問に関する得点は無効とする。 本試験科目で出題される内容には、「基礎」と「発展」ともに、神経科学(認知神経科学・神経生理学)、心理学(認知心理学・社会心理学)、医学(精神医学・予防医学)、運動科学(運動制御・筋や神経の可塑性・感覚と運動)、栄養科学、発達と教育などが含まれる。
	133	行動制御学	
	134	身体機能論	
	132	生理心理学	* 学生を募集しない。

平成29年度第2回 専門科目試験

出題説明一覧

共生人間学専攻(2/2)

講座 番号	分野 番号	分 野 名	出 題 内 容 に つ い て の 示 唆
14	141	現象数理論	線型代数学、解析学(微分積分学、関数論、フーリエ解析、力学系理論、確率論、微分方程式、関数解析)の知識と理解力を問う。
	142	数理情報論	情報科学全般の基礎的知識と計算機科学の研究に必要な思考力を問う。 後者は、プログラミング、数理論理学、言語理論、計算理論、符号理論、アルゴリズムとデータ構造等の分野、および、これらに付随する数学の基本的な素養を対象とする。
15	151	言語情報科学	認知言語学、生成文法、談話機能文法、語用論などの、現代の主要な言語科学理論のうちから、選択問題によりその理論の基礎的理解と応用力を問う(英語問題を含める)。
	152	言語比較論	諸言語を比較・対照し、分析・記述するために必要な基礎的知識と応用力を問う。 (ドイツ語など外国語問題を含める場合もある)
	153	言語情報システム論	* 学生を募集しない。
16	161	外国語教育論	外国語教育学(外国語習得論を含む)の分野から出題し、その分野での基礎知識だけでなく、判断力、自説形成力、論証力、説得力、及び個別言語での文章構成力(詳述力)も見る。
	162	言語教育研究開発論	言語教育学(教授法開発、教材開発、授業研究、教育評価など)、多言語社会論、異文化理解論の分野から出題し、その分野での基礎知識だけでなく、判断力、自説形成力、論証力、説得力、及び個別言語での文章構成力(詳述力)も見る。

平成29年度第2回 専門科目試験

出題説明一覧

共生文明学専攻(1/2)

講座 番号	分野 番号	分野名	出題内容についての示唆
21	211	文明構造論	以下の中から一つを選択する。 a. 近現代の中欧精神史における諸問題を、主としてドイツ語圏の文学・思想の視点から問う。 b. 近現代の社会思想に関わる諸問題を、主としてドイツ語圏の思想家・研究者の視点から問う。 c. 中国近現代史における政治や文化などに関する知識を問う。 d. 近現代の法哲学・政治理論上の諸問題を示してその基礎的な知識・理解を試すとともに、それに関する解答者の見解や問題関心を問う。
	212	現代社会論	現代文明のもつ特質と諸相、また近代における社会と経済の理論と実際、および思想に関する基本的問題を問う。
	213	国際社会論	以下の中から一つを選択する。 a. アメリカの歴史、思想、文化に関して英語を含む試験を行う。 b. 国際政治に関する概念や歴史に関する理解を問う。
22	221	多文化複合論	以下の中から一つを選択する。 a. 朝鮮半島を中心として、日本および中国も含めた東アジア世界における文化・思想・哲学・社会の諸問題について問う。 b. 中世の地中海・中東地域におけるユダヤ教・キリスト教・イスラームという三つの一神教文化間の交渉・複合関係について、基礎知識を問う。 c. アラブ・中東・イスラーム世界をはじめとする「第三世界」における文化・思想の諸問題について問う。
	222	地域文明論	a. 東アジア文化交渉史に関する基礎知識について問う。 b. 東アジア芸能史に関する基礎知識について問う。
	223	文明交流論	19世紀以降のフランスにおける文学、文化について問う。日本との比較を含んだ問いになることもある。

平成29年度第2回 専門科目試験

出題説明一覧

共生文明学専攻(2/2)

講座 番号	分野 番号	分 野 名	出 題 内 容 に つ い て の 示 唆
23	231	文化人類学	人類学の理論と民族誌的知識ならびに現代的課題について文化人類学的、社会人類学的視点からの理解を問う。
	232	地域空間論	人文地理学および地理学の基礎的知識と、その応用力を問う。
	233	環境構成論	以下の中から三問を選択する。 a. 建築・都市・図形科学に関する基礎的知識を問う。 b. 都市史・建築史に関する基礎的知識を問う。 c. 景観をめぐる諸問題に関する基礎的知識を問う。 d. 生活環境の建築的構成に関する基礎的知識を問う。 e. 歴史的環境(建築・都市)の形成・保全に関する基礎的知識を問う。
	234	文化遺産学	以下の中から志望する分野に最も近い一問を選択する。 a. 古代の都城ならびに考古遺物の研究法に関する専門的知識を問う。 b. 保存科学に関する専門的知識を問う。 c. 史料(出土文字資料を中心とする)に関する専門的知識を問う。 d. 環境考古学に関する専門的知識を問う。 e. 原始・古代の精神文化に関する専門的知識を問う。
24	241	歴史社会論	以下の中から一つを選択する。 a. 日本古代・中世史に関する専門的知識を問う。 b. 近世ヨーロッパ史についてその知識と理解を問う。また英語の読解についての試験も行う。
	242	東アジア文化論	以下の中から一つを選択する。 a. 日本語学・日本古典文学・日本近代文学に関する専門的知見、および文献解読の能力を問う。 b. 中国古典詩文の読解力と中国語学・中国文学に関する専門的知識を問う。 c. 古代から近世に至る中国史の専門的知識を問う。
	243	西欧文化論	イギリス文学に関する専門的知識およびその背景を成す歴史・文化・社会についての基本的知識と理解を問う。
	244	博物館文化財学	受験生が研究指導を受けることを希望する教員が指示する、分野の専門的知識と理解を問う。(なお、本分野の受験生は事前に研究指導を希望する教員と連絡をとり、これまでの研究状況や希望する研究テーマなどについて相談することが望ましい。)

平成29年度第2回 専門科目試験

出題説明一覧

関連環境学専攻(1/1)

講座 番号	分野 番号	分 野 名	出 題 内 容 に つ い て の 示 唆
31	311	共生社会環境論	公共政策学、環境経済学および社会法学についての理解力を問う。

以下の3講座(6分野)の試験科目については、4つの理科学科目(物理学、化学・物質科学、生物学、地球科学)のうちからどれを選択すべきかが、分野ごとに指定される。

講座 番号	分野 番号	分 野 名	試験科目名 (出題内容についての示唆は下記表の通り)
32	321	分子環境相関論	以下の中から一つを選択する a. 物理学 b. 化学・物質科学 c. 生物学
	322	生命環境相関論	以下の中から一つを選択する a. 物理学 b. 化学・物質科学 c. 生物学
33	331	生物環境動態論	生物学
	332	地球環境動態論	以下の中から一つを選択する a. 物理学 b. 化学・物質科学 c. 生物学 d. 地球科学
34	341	物質物性相関論	物理学
	342	物質機能相関論	以下の中から一つを選択する a. 物理学 b. 化学・物質科学

理科学科目

試験科目名	出題内容の示唆
物理学	力学・電磁気学・熱力学・量子力学・統計力学などから、物理学の基礎学力を問う。
化学・物質科学	物理化学、無機・分析化学、有機化学等の5問の中から4問を選択して解答する。
生物学	系統分類学、生態学、微生物学、生化学、分子生物学など、生物学の基礎的な知識に関する問題の中から、少数の問題を選択して解答する(英語にて生物学の知識を問う場合もある)。
地球科学	地質学および地球物理学に関する基礎的知識とその考察力/応用力を問う。